

大桑 第112号 まさたか 3月号



さかえく せかい か
栄区から横浜を変える！

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅で配っていきます！

栄区から、しがらみのない市政(政治)を実現します！

市議員3期目
よろしくお願いします！

市議員としての約束

- 1、選挙の前も選挙の後も駅前に立ち続け新聞(広報)を配り続けます。
- 2、大桑まさたかの政務調査費を公開し続けます。
- 3、私たち市民が市政(政治)に参加する流れをつくります。
- 4、子や孫のために持続可能な横浜(社会)をつくります。

6兆1,312億円 → 4兆9,934億円

平成24年度末の横浜市の借入金残高は4兆9,934億円になる見込みです。

平成23年度末の横浜市の借入金残高が5兆0,690億円でしたので、借入金残高がこの1年間で756億円減少する見込みとなっています。

次に、私が市議員になった時に発表された平成14年度末の借入金残高は、6兆1,312億円でしたので、その時と比べると1兆1,378億円減少したことになります。

横浜市の人口は2020(平成32)年ごろまでは増加すると予想されていますが、日本の人口は、すでに減少に転じています。人口が減少すれば、市税収入なども減少していきますので、横浜市の人口が増加している、今から借入金を縮減していかないと将来世代(子や孫)に過度な負担(増税など)を押し付けることになります。

最後に、現在の横浜市は順調に借入金を返済しておりますが、今後も、様々な事業を見直す必要などがありますので、ご理解頂けるようお願いいたします。

大桑新聞

プロフィール

大桑正貴(まさたか)

第112号(3月号)

連絡先

横浜市議員 大桑正貴(市政報告書)

〒247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町688-4-601

TEL : 045-892-5187

FAX : 045-892-5187

H P : <http://m-okuwa.net/>

E-mail : m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp

昭和48年(1973年)7月4日生まれ横浜育ち 血液型A型
横浜市立小山台小学校入学

大分県立大分舞鶴高校入学(1年次冬、転勤で横浜へ戻る)
神奈川県立大岡高校卒業

神奈川大学法学部法律学科卒業

平成14年(2002年)12月 アシスト株式会社退職

平成15年(2003年)4月 横浜市議員 初当選

平成19年(2007年)4月 横浜市議員 2期目当選

平成21年(2009年)9月 明治大学 専門職大学院卒業

平成23年(2011年)4月 横浜市議員 3期目当選

家族 : 妻、子(3人)、ママ(猫)、グリ(犬)

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅、いずれかの駅で配布しております。

1月分の収支報告(収入は政務調査費55万円/毎月)

平成23年度1月現在の政務調査費累計残高は一9,212円です。

今月の支出の内訳

研究会・研修会費	0円	会議費	0円
調査研究費	18,780円	事務費	13,429円
資料費	7,501円	事務所費	103,839円
広報・広聴費	352,808円	その他	0円
人件費	71,000円		

1月の支出合計は

567,357円です。

近況報告

平成24年第1回市会定例会(議会)が平成24年2月2日(木)から3月23日(金)で開催されています。今回の議会では、主に、平成24年度の横浜市の予算について議論しております。

小菅ヶ谷橋の耐震補強

環状3号線の栄区区間(小山台や小菅ヶ谷あたり)にある小菅ヶ谷橋ですが、平成24年度中に耐震補強する予定となっておりますので、ここでお知らせします。

この耐震補強は、平成7年におきた阪神淡路大震災を受けて進められている事業となっており、環状3号線など、緊急輸送路となる橋りょうにおいて進められています。

小菅ヶ谷橋は平成9年にかけており、阪神淡路大震災後に完成しておりますので、大きな地震に対する対策は施されておりますが、緊急輸送路であるという点などから、今回は更なる耐震工事をする事となりました。

最後になりますが、詳しい工事期間が分かりしだい、改めて、お知らせします。

上郷開発について

先月の大桑新聞でもお知らせをした上郷開発についてですが、多くの方からご意見を頂いておりますので、改めて、書かせて頂きます。

上郷開発については、平成24年1月に東急建設(株)から新たな開発計画が示されました。多くの方が望むように、私も、瀬上の森につながる大きな緑が開発によって削られることなく残せればと考えておりますし、そのように行動できればと思っています。

しかし、一方で、上郷開発にかかる土地は、東急建設(株)や地元の地権者が所有しております。確かに貴重な緑ではありますが、あくまでも個人の土地ということです。そのような前提がある以上、「緑をそのまま残すことは難しい」という現実が目の前にあるのも事実です。もう少し具体的な言い方をすれば、上郷開発がなくなっても、地権者は(緑地の開発という一定の制限はありますが)、建物を建てることができます。

最後に、横浜市としては、できる限り多くの緑を買い取る方向ではありますが、その前提として、当然のことながら地権者の意志が必要になります。地権者の意志を尊重しつつ、緑地を保全するという難しい状況について、ご理解頂けるようお願いいたします!

宝くじの収益金について

ここでは、宝くじの売り上げの一部が横浜市の収入となり、様々な事業(学校の建設や修繕・地球温暖化対策など)の財源となっていることをお知らせします。

横浜市内で販売された宝くじの売り上げのうち、約4割が「収益金」として横浜市の収入になっています。ちなみに、平成24年度の横浜市の予算(案)の中では、宝くじの販売による収入を100億円程度と見込んでいます。

以上のような理由から、もし、宝くじを購入することがあれば横浜市内で購入して頂ければと思います。しかし、今回の記事は宝くじの購入を勧めるものではありませんので、その点については誤解のないように、よろしくお願い致します。



大桑新聞ではみなさまとともに、

栄区について考えていきたいと思っております。

HP : <http://m-okuwa.net/>

E-mail : m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp